



「日本版竜巻スケールおよびその評価手法に関する研究」

小規模ではあるが激甚被害をもたらす竜巻等に対する個人や行政レベルの対応、あるいは構造物の耐風性や設計上の考え方については、米国等に比較してわが国の状況は極めて不十分です。

竜巻の認識件数は増加傾向にあるが、顕著な影響は極めて限られた時空間的に現れるため、実態の把握が難しく、さらに竜巻発生の実態把握を的確に行うためには、竜巻の特徴を的確に表す分類評価を実施する必要があります。1971年に藤田哲也により提案されたフジタスケールは、世界各地で使用されてきましたが、被害程度の認識方法や風速の推定方法が明確でないなどの問題が指摘されており、米国では2001年頃から従来のフジタスケールに対する見直しが始まり、現在は改良フジタスケール(Enhanced Fujita Scale, EF スケール)が用いられています。このEFスケールは、米国での建築物や工作物、自然植生の空気力や耐力、強度を元に作成されており、これを直接日本の竜巻被害評価に適用することはできません。本研究集会では、日本における竜巻の強度分類法として、国内の被害指標(Damage Indicator, DI)として適切なものを抽出し、それらの被害状況程度(Degree of Damage, DOD)の分類と対応する作用風速(または等価風速)の適切な評価方法を提案するため、被害指標(DI)、被害程度(DOD)の抽出・設定、竜巻発生時の空気力学的作用と工学的に等価な風速への換算手法、時空間的に非定常な流れ場での構造物や樹木等の空気力の性質、構造物や樹木等の耐力、強度の評価方法など多岐にわたる、竜巻被害評価関連技術に関する研究結果に関する情報交換を行い、日本版改良フジタスケールの策定に寄与することを目的といたします。奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

奥田 泰雄 (国土技術政策総合研究所)

開催日時：2014年1月29日(水) 13:30~17:10

開催場所：東京工芸大学 中野キャンパス1号館 地下1階 大講義室

参加申込：事前登録制：wejurc+140129p@gmail.com に、ご氏名、ご所属、連絡先をお送りください。その他、お問い合わせは、東京工芸大学 風工学研究拠点 事務局 TEL:046-242-9658 までお願いいたします。

プログラム

| | | |
|-------------|-------------------------|--------------------|
| 13:30~13:40 | 主旨説明 | 奥田泰雄 (国土技術政策総合研究所) |
| 13:40~14:10 | 日本版 EF スケールの策定計画について | 中里 真久 (気象庁) |
| 14:10~14:40 | 被害指標の抽出と、被害程度の設定 (建築物) | 喜々津 仁密 (建築研究所) |
| 14:40~15:10 | 被害指標の抽出と、被害程度の設定 (非建築物) | 吉田 昭仁 (東京工芸大学) |
| 休憩 (20分) | | |
| 15:30~16:00 | 突風による樹木の被害 | 鈴木 覚 (森林総合研究所) |
| 16:00~16:30 | 木造建築物の耐力 | 坂田 弘安 (東京工業大学) |
| 16:30~17:00 | 総合討議 | 司会：植松 康 (東北大学) |
| 17:00~17:10 | まとめ | 田村 幸雄 (東京工芸大学) |